

魅力満載!! 三江線

江の川沿いの風情



《11》

石見地方の秋の風物詩といえは、やはり石見神楽をおいてほかにない。毎週末になると、あちこちの神社で笛や太鼓のにぎやかなおはやしの音が聞こえてくる。

そんな石見神楽の原型とされているのが、国の重要無形民俗文化財に指定されている大元神楽である。

島根県西部に古くから伝わる大元信仰に由来しているというこの神楽は、式年祭のため、数年に一度(ところにより四年、五年、七年に一度)しか舞われず、またそれぞれ土地の神様にささげら

れるものであり、その土地を離れて舞うことはできない。この貴重な大元神楽が、今年、私が住む江津市桜江町川戸の太詔刀命(ふとのりとのみこと)神社でも七年ぶりに奉納された。

石見神楽は、これまで数えきれないほど見てきたが、残念ながら大元神楽を見たことはなく、この機を逃しては、と神社を訪ねた。

神前では、白い神主衣装を身に着けた神職による「天蓋(てんがい)」「綱貫(つなぬき)」などの厳かな舞と、川戸



にいる。おながすけてくれたおでんやうどん、お酒を飲んだり、素朴な中の方々が用意をいただき、大人たちは和やかな光景が広が



大元神楽の神職舞の一つ「綱貫」。白い神主衣装を身に着けた神職が厳かな舞を披露した

国指定の重要無形民俗文化財という、高貴な堅苦しいイメージがあるが、ここは地元の人々と神様が、ともに秋の収穫を祝う、喜びにあふれた温かい雰囲気にも包まれている。

過疎化、少子高齢化の波が押しよせるこの地域だが、先人が大切に守り伝えたこの神祭りが、子から孫へと、末永くいつまでも、この地に伝わればと心から思う。

大元神楽の深い歴史と伝統については、江津市桜江町の太詔刀命神楽伝承館をぜひ訪ねていただきたい。

(NPO法人「結まゐるぷらす」かわべまゆみ、江津市桜江町在住) 隔週土曜日掲載

※大元神楽伝承館は江津市桜江町市山481 (電話08555・62・1508)。

大元神楽

土地神様にささげ舞